

野草観察

仲間の花 勢揃い—16

クマツヅラ科の花 4 種 (No.229~232)、ケシ科の花 6 種 (No.233~238)、ゴマノハグサ科の花 2 種 (No.239・240)、ハエドクソウ科の花 2 種 (No.241・242)、計 14 種を紹介します。今回は、アツミゲシ(No.234)で「自衛隊の火炎放射器」が登場します。

クマツヅラ

アレチハナガサ



クマツヅラは、淡紅紫色で直径 4 mm ほどの花をつけ、道端でよく見かけます。名前の由来はよく分かっていないようですが、①花の後、米粒状の実が穂状につくので「米ツヅラ」がなまって、②花穂が長く伸びるため、ウマウツツヅラ（馬打葛）がなまって、クマツヅラとなったなど諸説があります。

アレチハナガサは、道端や荒地、河川敷などに生える、南アメリカ原産の帰化植物です。名前は、荒地に生え、茎の上部に寄せ集まった小さな花が赤い花飾りをつけた花笠のように見えることから来ています。漢字での表記は荒地花笠となっています。

イワダレソウ

ヒメイワダレソウ



イワダレソウは日当たりのよい海岸に生え、茎は長く匍匐しながら節から根を出して増えます。写真は、荒川右岸の河岸沿い(河口から 1 kmほど上流側)で撮ったものです。名前は、岩のある場所に垂れ下がるようにして生えていることに由来しています。

ヒメイワダレソウは、イワダレソウに花姿が似ていて、小さいことからこの名があります。グランドカバーなどに使われていますが、道端などに自生している姿をよく見かけます。

ナガミヒナゲシ

アツミゲシ



これら 2 種については、「エイリアン植物記」(浅井康宏著、2020 年発行)から抜粋・要約させていただきます。

『ナガミヒナゲシは第二次世界大戦後に、アメリカ合衆国やカナダから輸入された雑穀類などに種子が混じって侵入してきたが、原産地はヨーロッパ。昭和 36(1961)年 5 月、東京世田谷区の高津川に近い道端で初めて発見された。和名は「長実雛罌粟」の意味で、円柱状の果実の形に因んだもの。市街地をオレンジ色に彩るほどの驚異的な繁殖力を持っている。』
補足します。「一つの果実には約 1600 粒の種子が内包されている」(フリー百科事典ウィキペディア)との記述がありましたので、昨年 5 月に果実から約 1/2 の種子を取り出して数えてみました。500 粒までは確認できましたが、残念ながら精神的疲労から事後のカウントは断念しました。

『アツミゲシは阿片の原料として栽培される麻薬植物のケシに極めて近縁で、アヘンアルカロイド類を含有するため、麻薬取締法で栽培が禁じられている。ところで、昭和 38(1963)年頃、この植物が愛知県南部の渥美半島(伊良湖岬)の海岸(砂浜)一帯に帰化し、大群生したことがある。驚いた麻薬取締当局などが除去対策に苦慮し、自衛隊の火炎放射器までが動員され、まさに官民一体の「ケシ騒動」になったのであった。「渥美罌粟」の名は、この際に生まれたもの。』

ヒナゲシ



シラユキゲシ



ヒナゲシは、江戸時代に観賞用として導入され、野生化しているヨーロッパ原産の帰化植物です。野生種の花は深紅色で花びらは4個ですが、園芸用に栽培されているものは白やピンクなど色合いが豊富で、花びらが八重のものもあります。名前(漢字では「雛罌粟」「雛芥子」)は、可愛らしい花姿をしていることから来ています。

シラユキゲシは、やや湿ったところに生え、直径3~4 cmほどの花をつけます。名前は、雪のような白い花色とケシ科の花であることから来ています。中国東南部原産の帰化植物です。

ムラサキケマン



カラクサケマン



ムラサキケマンは、木陰など直射日光の当たらない場所に生え、茎は真っ直ぐに立ち上がります。雄しべと雌しべは通常、上下の花びらに挟まれて見えませんが、ハチなどが蜜を吸おうとして花びらを押し下げると、雄しべ・雌しべの先が出て来て受粉します。名前は、仏殿の内陣を飾る仏具の華鬘(けまん)に花姿が似ていることから来ています。

カラクサケマンは、ムラサキケマンによく似ていますが、花は小形で、日当たりの良い場所などで地面を這うように伸びて群落を作ります。明治期に渡来したヨーロッパ原産の帰化植物です。

モウズイカ

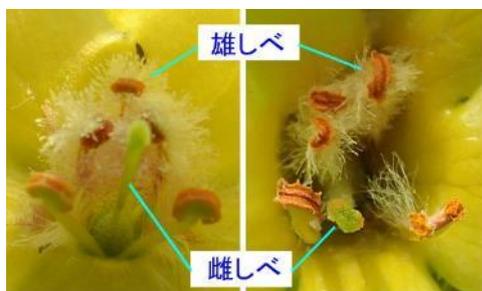
ビロードモウズイカ



いずれも日当たりのよい道端や空き地などに生え、茎は直立して高さは1~2mほどになります。明治時代、観賞用に導入された帰化植物です。

モウズイカの原因はヨーロッパ~北アフリカで、小石川植物園などで植えられたものが逸出したと考えられています。モウズイカ(毛蕊花)の名前は、雄しべ(雄蕊)の花糸に毛が生えていることに由来します。

ビロードモウズイカの原因はヨーロッパ、全体に灰白色の毛(星状毛)を密生し、ビロードに似た質感であることからこの名がついています。多様な環境下で逞しく生育しています。



モウズイカ 雄しべの毛
 ビロードモウズイカ 雌しべ



花びら



葉



茎

ビロードモウズイカの毛



ビロードモウズイカの生育環境

トキワハゼ

ムラサキサギゴケ



両者は全体の姿や花がよく似ています。相違点をまとめてみました。

	トキワハゼ	ムラサキサギゴケ
花の大きさ	1cm ほど	1.5~2cm ほど
花の色	非常に淡い薄紫	やや濃い目の薄紫
茎の形態	匍匐茎を出さない	匍匐茎を出す
開花時期	3月~11月頃	4~5月頃

トキワハゼは、何気なく歩いている散歩道や路地の片隅、舗装の隙間にも、ひっそりと咲いていることがあります。名前は、花期が長いことから常盤(トキワ)、花後に種子が飛び散る様子から爆ぜ(ハゼ)とされています。

ムラサキサギゴケは、花が紫色で、形がサギ(鷺)に似ていることからこの名があります。なお、名前からするとコケの仲間では?と思われるかも知れませんが、トキワハゼと同じくハエドクソウ科サギゴケ属です。